

つながる力

《No.5》



8月26日、「ケーンソンをつくらせない三重県民の会」のJFEエンジニアリング横浜本社署名提出のために、近くの公園に集合した参加者たち。

—目次—

- 《三 重》市民への敵対をあからさまにした JFE エンジニアリング横浜本社・2ページ
- 《山 口》阿部共同代表を招き、搬出予定地の学習会・・・・・・・・・・3ページ
- 《愛 媛》高江の「ヘリパット建設反対行動」に参加して・・・・・・・・・・4ページ
- 《首都圏》「何としても阻止を」首都圏で全国交流集会・・・・・・・・・・5ページ
- 《東 京》岩ズリの契約は済んでいない…国会答弁で判明・・・・・・・・・・6ページ
- 《沖縄からの便り》三正面攻撃を許してはならない・・・・・・・・・・7ページ
- インフォメーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8ページ

※ニュースの名称募集に、いくつかのご提案をいただきました。お寄せいただいたみなさん、ありがとうございました。編集局で話し合った結果、上記の名前といたしました。今後とも、よろしくお願いいたします。※写真提供…阿部悦子・大谷正穂・八記久美子

《三重県》

市民への敵対をあからさまにした JFE エンジニアリング横浜本社

辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会 代表 柴田天津雄

■本社行動に総勢 70 名が

8月26日、快晴だ。署名用紙、横断幕、のぼり旗、申し入れ行動のグッズをそれぞれ分担して、三重県から総勢10名、横浜・鶴見線の弁天橋駅へ向かった。午後1時20分前に駅に着いた。駅前の広場には30名ほどの人たちが待っていた。1回目の本社行動ということもあって初めて会う人が多かった。

午後1時、事前の集会が開かれた。「三重県民の会」から本日の行動提起と仲間の紹介。本村伸子衆院議員、岡野恵美三重県議など議員さんも同行してくれた。辺野古土砂全国協の阿部悦子さんをはじめ、市民運動や労働組合の仲間たちが次々と挨拶をしてくれた。総勢70名。炎天下にもかかわらず、多くの人たちが本社行動にかけつけてくれた。

■申し入れていたのに責任者がいない!?

午後2時、横断幕を掲げ、のぼり旗を立ててJFE エンジニアリング横浜本社(以下JFE)の正門に向かった。警備員が門扉を閉めて待っていた。連絡しておいた通りに面会に来たことを告げると、中には入れない、という。理由を聞いても答えずに、入れない、と一方的に言うばかりだ。警備員にJFE本社と連絡を取るよう交渉するが全く対応しない。

本社総務部に直接電話を入れると、本日は休業で責任者がいないので対応できない、という。私たちが二週間も前からきちんと手続きを踏んで申し入れているにもかかわらず、

まったくふざけた対応だ。本村議員に入ってもらい、本社と交渉したところ、署名と申し入れ書の受け取りはしますので、警備員に渡してください、ということになった。正門前で約1時間半、座り込みをして抗議を続けた。署名は受け取るが上部へ責任をもって届けることは約束できない、という。そんな不誠実な対応で皆さんの気持ちのこもった、16,629筆の署名は渡して帰れない。申し入れ書だけを渡して、署名は持ち帰ることにした。またいつか署名をもって、横浜本社に抗議行動に来たいと思う。

■胸が熱くなった交流集会

最後に鶴見公会堂に帰って、交流集会をもった。50名ほどの人が残って、一人一人が発言した。それぞれの人が地域で課題をもって活動されていることがよくわかった。こうした人たちがケーソンに関心を寄せて署名を集めてくれたのかと思うと胸が熱くなった。皆さんにお会いできて本当に良かったと思います。三重県ではこれからもJFEに対してはたたかいを続けていきます。



交渉の様子



署名提出で、本社に向かう参加者ら

申し入れ書を警備員に渡す柴田代表



阿部共同代表を招き、搬出予定地の学習会

「辺野古に土砂を送らせない!」山口のこえ 代表 大谷正穂

■土砂搬出と高江の報告を

8月21日、採石予定地のひとつの山口県防府市に阿部悦子共同代表を招き、西日本各地に広がる土砂搬出予定地と、そこでの搬出反対の取り組みを聞きました。併せて、つい先日まで参加されていた高江の闘いについても、パワーポイントを使い報告されました。過疎の地域で(山口県も高齢化が凄まじく、過疎集落も多くある県だが)少数でも反対の声を上げていることを聞くと、励まされます。「条件の恵まれている私たちがガンバント、イケン」の気持ちが広がればいいなと思います。

■集会はテレビでも放映され

集会開催に向け「辺野古に土砂を送らせない!」山口のこえはビラ 4000 枚を配布。このうち数百枚は採石場のある向島(むこうじま)の各集落に配りました。記者会見を行い事前に集会案内を報じてもらうとともに、当日の様子もテレビで流れました。参加者は約70人でした。

また防府の市民が中心になって、JR 駅近くの公共施設で、辺野古の写真展も一週間しました。「公共施設で特定集団の催しを何故す

るのか!」と市役所に抗議した人もいました。ヤレヤレ。

■現地を重視した活動

私たちは、採石場のある現地での宣伝を重視します。自分たちの生活する場で何が計画されているのか、いつもほとんどの住民が知らないうちに勝手に決められ、進められていきます。それがこの国の現状です。行政の施策も企業の活動も、住民が注目し口を出すことが大切だと思います。「この地の土砂が、問題になっている辺野古に送られる」—そのことを考えてほしいと願っています。

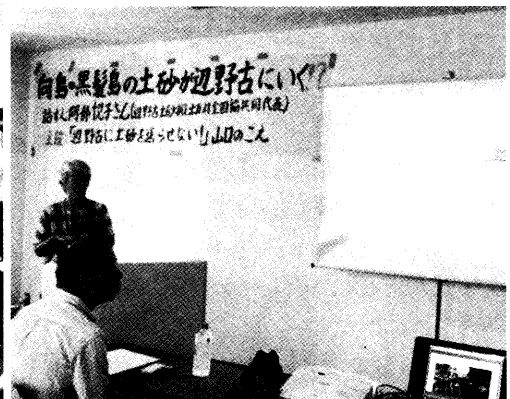
同市ならびに、もうひとつの辺野古への土砂搬出予定の採石場がある周南市では、9月市議会で一般質問でこの問題が取り上げられます。地域から声がどんどん上がればいいですね。

■町内会長ともつながり出来て

ひよんなことから防府市内で町内会長をされている方が、市に「向島の土砂を辺野古に送らないよう」要望を出されたことを知りました。パンフも読まれ「21日の集会、知っちゃったら行ったが」と言われるので、答えました。「何回でもします。」



会場いっぱいの70人が集まりました。



パワーポイントを使って話す阿部さん

9月4日、山口県下関市において、外来生物を沖縄に運び入れないための、条例や広域連帯について学習会を行いました。主催は、全国連絡協議会・山口のこえ・北九州連絡協議会の合同で、当日は、沖縄の土砂条例制定のリーダー・仲村未央県議をお迎えしました。内容の報告については、次号で行います。

高江の「ヘリパッド建設反対行動」に参加して

辺野古土砂全国連絡協議会 共同代表 阿部悦子

■今も消えない恐怖心

私は、去る8月5日から14日まで沖縄に滞在し、防衛局が行う高江の「ヘリパッド建設」の強行に対して住民が闘う現場に行ってきました。

大勢の機動隊が抗議行動を阻み、圧倒的な数での過剰警護や不当逮捕が行われていました。140人の住民が暮らす高江で、他県からの機動隊500人に加えて、沖縄県警などの300人以上が威圧的、暴力的な姿を見せていました。「この国は警察国家になったのか」と、帰ってきた今も恐怖心が消えません。この場所で「沖縄」は日々闘っているのです。

■機動隊の行動を見て、気を失う女性も

そもそも、5月末には、元米兵による20歳の女性の暴行殺人遺棄事件があり、6月19日には6万5000人が追悼・抗議する「県民大会」がありました。「殺されたのは私や家族だったかもしれない」「守ってあげられなくてごめんなさい」との悲痛な思いに溢れた大会に参加して、私は「今度こそ沖縄が政府の圧政を押し返すのではないかと期待したほどでした。が、しかし。

続く7月10日には、沖縄が10万票を越える大差で現職大臣を落選させ、伊波洋一参議院議員を誕生させて喜びに沸く中、政府は翌未明、高江で「ヘリパッド」の工事を開始しました。そして、その後送られてくる映像の数々は、この世のものとも思われないものでした。22日にはひとりに5人も6人ももの屈強な機動隊員が襲いかかり、首を絞められた女性を目の辺りにした女性が気を失い、何人もの人が救急車で搬送される事態が展開されていました。

■800人と共に

何という卑怯、何という露骨、何という腐った政権！そこで、次の闘いのピークとして要請があ

った8月5日の「N1裏」テント前の抗議行動に参加したのです。800人もの人々が集まったことで、この場所での住民排除はありませんでしたが、7月にテントを撤去された「N1表」に続く公道では、ヘリパッド予定地への道路を作るための土砂搬入が行われていました。10台の砂利運搬車の間に、30台もの警察車両、機動隊車両などが配置されて、連なって行くのです。ここで搬入を少しでも遅らせようと「座り込む」人々と行動しました。

■大宜味村でも抗議行動が

また、私は、国頭村にある國場組の土砂採取地に案内されて行きました。ここも膨大な土砂の採取でいくつもの山が消えており、道中には警察等の車両が見張りをしていました。一方で、車両が高江に向けて通過する大宜味村の国道端に立って抗議する住民の方々に出会いました。

■沖縄に学びつつ

琉球王朝から続く自然と人情豊かな沖縄の民意を敵に回して、この国に未来はありません。本土の私たちは土砂搬出地からの運動を強化して辺野古新基地をつくらせないこと共に、オスプレイの訓練飛行を目論む「辺野古・高江・伊江島」の人々の闘いに学び共に行動していきたいと思います。

2016.7.23付 琉球新報より



《首都圏》

「何としても阻止を」首都圏で全国交流集会

反辺野古土砂搬出/首都圏グループ 世話人 若槻武行

■豊富な内容に超満員の参加者

「沖縄の状況が緊迫している。辺野古・高江の基地建設阻止に向け、沖縄と全国の力を一つにして行こう」——7月31日、東京で全国交流集会が開催された。国会包囲行動や辺野古土砂搬出反対「全協」の仲間など、全国各地から550人が結集。会場は通路まで埋まる超満員。会場に入りきれない人も出て、モニターTVも設置された。

高江が緊迫し講演予定の山城博治氏が来れなかったものの、代理の仲村善幸名護市議が現地の状況について、ジャーナリスト高野孟氏が米軍の動向、白藤博行専修大教授が辺野古と地方自治、桜井国俊沖縄大名譽教授が公有水面埋め立て承認の誤りについて講演、阿部悦子全協共同代表、広島の新田秀樹氏が現場から報告、沖縄の参議院選勝利直後の井波洋一氏の挨拶など、豊富な内容だった。

■首都圏に広がる認識

ロビーは多くの団体が署名を集め、ハンフやグッズが並ぶ。土砂搬出反対署名は既に済ませた人も多数いたが140筆集め、「土砂ハンフ」は150部を販売した。

全体集会に先立ち午前中は分科会。第1分科会は「職場・地域の戦い」、第3「地方自治体の戦い」、第4「反環境破壊」。第2の「辺野古埋立て土砂の採取・搬出」は全協と我々

反辺野古土砂搬出/首都圏Gが運営を担当した。

■「初めて知った・勉強になった」に励まされ

この分科会では、生物多様性と辺野古埋立てについて安部真理子氏、各搬出地の状況について阿部全協代表、今後の戦いについて湯浅全協顧問が問題提起。続いて、搬出地の北九州から八記久美子氏、ケーソンの三重県から柴田天津雄氏、アルゼンチンアリの広がりなどを松本全協事務局長、静岡・沖縄を語る会の大石氏が報告。首都圏Gも今後の活動への参加・結集を呼びかけた。

土砂搬出問題は首都圏であまり知られていないので、当初は参加人数を心配したが、100名超が結集。椅子の補充で、何度もうれしい悲鳴をあげることになる。参加者から「初めて知った」「勉強になった」などの声。大いに励まされた。

■その後の行動に即反映

分科会ではまた、8/1「土砂パンフ」の国会議員配布、8/26「ケーソン製造反対」JFE横浜本社への署名提出・要請行動の呼びかけも行う。8/26にはこの分科会参加者など、70名が横浜のJFE本社前に結集。辺野古基地に反対する首都圏での直接行動となった。



全体会の参加者と、報告をする伊波洋一参議院議員

岩ズリの契約は済んでいない...国会答弁で判明

辺野古土砂全国連絡協議会 顧問 湯浅一郎

■外来種問題の責任は沖縄防衛局が持つ

2016年4月26日、第190回衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会における近藤昭一議員(民進党)の質問への政府答弁から以下のことが明らかになりました。

- ・具体的な採取場所はまだ決定しておらず、供給業者との契約も行われていない。
- ・外来種の持ち込みによる生態系のかく乱問題については沖縄防衛局が責任を持つ。具体的には環境監視等委員会の専門委員会の指導、助言を得て、土砂提供業者に調査させる等、実行する。

初めて明らかにされたこれらの事実を念頭に置きながら、土砂搬出阻止に向け、できることを工夫していく必要があります。例えば、外来種問題での方針が見えない間は、契約行為はするべきではないという主張意味を持ちえます。

■土砂搬出予定地の約6割が重要海域に

もう一つ、めばしいことは、委員会の4日前の4月22日に「生物多様性の観点から見た重要海域(以下、重要海域)」が公表されていたことが政府答弁で確認された点です。この背景には、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約締約国会議において、2020年までの「愛知目標」の第11項目、「各国は海域の

10%を海洋保護区にする」という目標に向け、その基礎資料として「重要海域」を選定することになっていました。当初は2014年春には発表の予定でしたが2年間も延期していたのです。この理由として辺野古が重要海域に含まれることが明確になることを恐れた防衛省や外務省からの圧力があった可能性があります。

沿岸で270海域が抽出されました。辺野古の海を含め沖縄本島の沿岸はほとんど重要海域ですが、何と小豆島、黒髪島、五島、天草、奄美大島、徳之島など、土砂採取予定地が面する海の6割強が重要海域にあることが初めてわかりました(地図参照)。

■今求められるのは

生物多様性の回復と保全を第1に施策を進める立場に立ち、辺野古の海はもちろん、土砂搬出地の海も、ともに海洋保護区にすべきであるとの声を強めていくことが今、求められています。

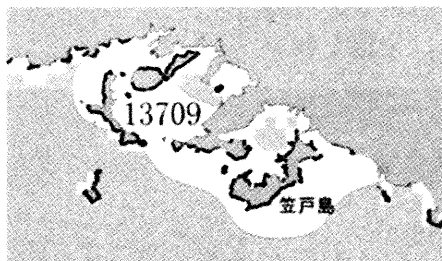
なお、委員会議事録は以下にあります。

http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_kaigiroku.nsf/html/kaigiroku/002519020160426003.htm#p_honbun

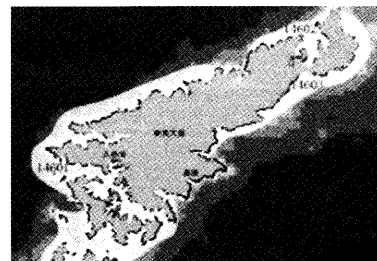
「白い部分が重要海域」



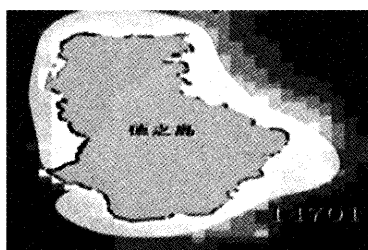
小豆島(香川県)



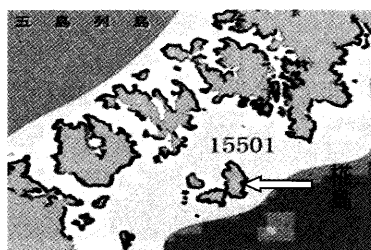
黒髪島(山口県周南市)



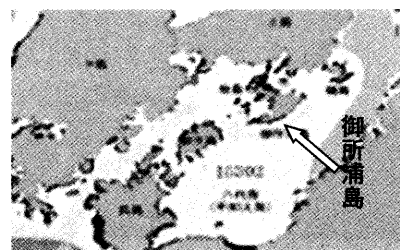
奄美大島(鹿児島県)



徳之島(鹿児島県)



椀島(長崎県五島市)



天草御所浦島(熊本県)

沖縄からの便り
《連載 No.1》
いちやりば
ちよーでー

高江・辺野古・裁判の 三正面作戦を許してはならない

ヘリ基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子

■血の叫びにも似た知事の訴え

翁長雄志沖縄県知事による辺野古埋め立て承認取り消しに対して、安倍政権が起こした「違法確認訴訟」第1回公判（8月5日）の冒頭陳述で、知事は「自国の政府にここまで一方的に虐げられる地域が、沖縄県以外にあるのか！」と訴えた。血の叫びにも似たそれは、140万沖縄県民の思いを代弁するものだった。

■まるで武器なき戦場

7月10日に投開票された参議院選以降の、沖縄に対する安倍政権の暴虐ぶりは格段にすさまじい。辺野古新基地建設、高江オスプレイパッド建設に反対する「オール沖縄」選出の伊波洋一氏を、自民党現職大臣だった島尻安伊子氏に10万6400票の大差をつけて当選させた県民に対する「報復」だろうか…。

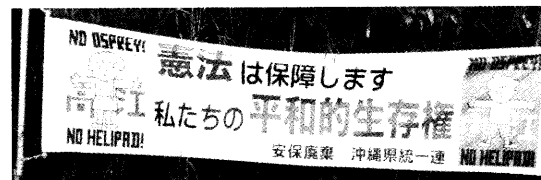
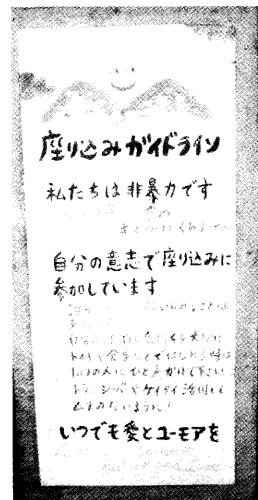
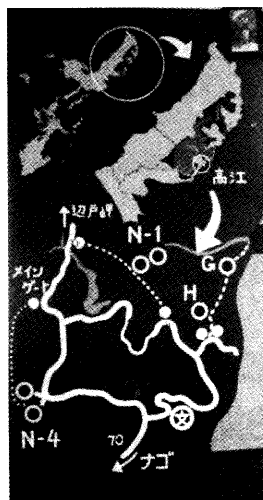
参議院選の勝利を喜ぶ暇もなく、翌11日早朝から機動隊や重機による高江への攻撃が始まった。全国各地から500人以上の機動隊を集め、沖縄県警・警備会社・防衛省職員を含めると約1000人が、人口150人不足の高江集落に投入され、22日には、一帯を戒厳令状態に置き、抵抗する住民・市民を孤立させて暴力の限りを振るった。それは、武器こそないものの「戦場」としか言いようのない光景だった。

■まかり通る安倍政権の違法・無謀

住民らが10年近く守ってきたN1ゲートの座り込みテントは強制撤去され、以来、連日10~20台のダンプが土砂や砂利を搬入してオスプレイパッド建設に向けた作業を行っているが、住民・市民はN1裏テントを拠点に泊まり込みや早朝からの抵抗を続け、工事を遅らせている。全県・全国から、また海外からも駆けつける人たちは増える一方だ。違法封鎖・検問や拘束、世界自然遺産候補地である森林の無断伐採、自衛隊ヘリによる資材の空輸も検討するなど、安倍政権によるあらゆる違法・無謀がまかり通る理不尽を、もっと広く知らせたい。

■「三正面作戦」を許してはならない

政府と県との「和解」により3月から工事が中断している辺野古についても、政府は裁判所が求めた「協議」を行わず、「違法確認訴訟」の早期決着をめざしている。政府の意向を受けた高裁の多看谷裁判長は県側の証人申請を退け、9月16日に判決を下す。判決を機に辺野古の工事も一挙に再開される可能性がある。高江・辺野古の現場と裁判の同時攻撃という「三正面作戦」（地元紙の表現）を許してはならない！



いずれも、高江で撮影した写真

「いちやりばちよーでー」は、「一度会ったらみな兄弟」という意味です。

■第3回全国連絡協議<天草総会>ご案内

- 日時…2016年10月1日(土)～2日(日)
- 会場…天草国際交流会館(略称 ポルト)天草市中央新町15-7
- 日程…10月1日(土) 13:00～15:00 第3回総会
15:15～17:15 記念コンサート&講演会
 - ・記念コンサート ティンクルズ(上野敬・生駒京子・戸谷節子)「沖縄を弾く」
 - ・講演①「辺野古の今後の動きと土砂搬出反対運動に期待するもの」
講師 北上田毅さん(沖縄平和市民連絡会・ヘリ基地反対抗議船船長)
 - ・講演②「ジュゴンの海に抱かれて」
講師 浦島悦子さん
(北限のジュゴン調査チーム・ヘリ基地いらない二見以北10区の会)
 - ・講演③「天草御所浦と水俣」
講師 永野隆文さん(エコネット水俣勤務・みなまた地域研究会・
環不知火プランニング水俣フィールドパートナー)
- 10月2日(日) 09:00～13:00 天草市御所浦の採石場見学(船利用)※昼食後解散

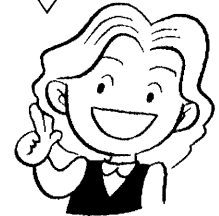
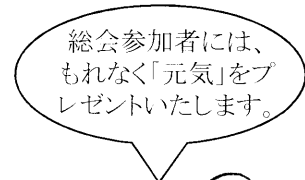
●参加費用

- 参加費 1000円
- 懇親会 3500円(宿泊参加者には夕食になります)
- 宿泊費 3500～5500円(一泊朝食付き)

※10月2日の採石場見学は希望者です。

予定費用船代:1200円 昼食代:1000円程度

- 申し込み、締め切り…9月23日までに、お近くの加盟団体か、
生駒研二 携帯090-8396-5360 Tel・fax 0969-22-0674
ikmks.426@sky.plala.or.jp まで。



■辺野古埋め立て土砂搬出計画撤回を求める署名

第二次集約期限:9月末日(10月にも第二次署名提出を予定)

■カンパ等の振込先

郵便振替 01750-8-144158 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
2016年度会費が未納の団体は、入金をよろしくお願いします。

■編集後記

○高江の状況に胸が苦しい。座り込み、車の下に潜り込んで抵抗する人々。暴力的に引きずり出し排除する数えきれない機動隊。不当逮捕が続き、名護署前で抗議する人々。土砂が運ばれ分断されるヤンバルの森。なかなか足を運べない私たちは、まずは本土での運動を!と心を鎮めるのだけれど。(阿部)

○参院選の余韻残る中、機動隊を動員し高江ヘリパッド建設強行。辺野古新基地とリンクしている。土砂搬出には外来種混入が否定できない。新たな活動方針が求められる夏となった。(松本)

○発行が予定より遅れました。期日までに原稿を寄せていただいたみなさん、ごめんなさい!(八記)

《辺野古土砂搬出反対全国協ニュース》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫(自然と文化を守る奄美会議)

阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi_etsuko@yahoo.co.jp

編集…松本宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県松山市松前町3-2-2 阿部悦子 TEL090-3783-8332